

【榎本館長からのメッセージ】

ついこの前までは真夏のような日差しが続いていたのに、あっという間に秋の日差しに・・・これからは時間が過ぎるのが速くなっていきます。そしてすぐに11月がきます。陰暦では「霜月」と呼ばれ、昔はこの時期、霜が降るくらい寒かったことからこう呼ばれるようになったといわれます。今では霜どころか20度を超える日があるくらい。温暖化はこんなところまで影響を与えているんですね。少しでも環境に負荷をかけない暮らしを心掛けたいところです。

さて11月の夢の島は、まだまだ文化の秋が続いています。毎年恒例となった「子どもしぜん科学大賞」、「子ども絵画コンクール」、「ウィークエンドコンサート」など盛りだくさん。そうそう、夢の島カフェでは先月より、豆乳チャイティーラテ(アイスのみ)を始めましたが、これが大変好評!! まだ飲んだ事ない方はぜひこの機会に挑戦してください。癖になる味です。 館長

季節イベントの紹介 (イベント・展示担当：関)

企画展「アマゾン川流域の生きもの展」(11/8～27)では、生きものたちが植物館へやってきます。ブラジルの奥地の世界最大の面積を誇る「アマゾン熱帯雨林」は生物多様性の宝庫と言われています。今回は支流のアンデス山脈からアマゾン熱帯雨林までアマゾン川流域で見られる美しい、不思議な生き物たちをご紹介します。お楽しみに!

【企画展関連イベント】

「グッピーの透明骨格標本を観察しよう」(11/27)

【11月のイベント】

「ウィークエンドコンサート」(11/5、19) 「ハーブの学校」(11/6) 「森の学校」(11/12)

「こども自然科学大賞 発表会 & 表彰式」(11/12)

「熱帯大温室で空中散歩体験」(11/13)

「開館記念オリジナル景品プレゼント」(11/19)

「芋ほり大会」(11/20) 「こども絵画コンクール受賞者発表&表彰式」(11/26)

★詳しくはイベントチラシまたは夢の島熱帯植物館までお問い合わせください。



▲ コロソマ
ピラニア似ですが草食です



◀ モルフォチョウ
「世界一美しい」と言われる蝶

館内で見られる植物の紹介 (植物館植栽担当：横平)

サルオガセモドキは灰色がかかったコケや地衣類にも見えますが、パイナップル科チランドシア属の着生植物です。

アメリカ東南部からアルゼンチン中部の間に広く分布し、現地では樹木や電線などから垂れ下がって一生過ごします。

全体の長さは5メートルに達することもあります。根のように見えるのは、細い茎の集合体で、根は退化していません。葉は線形で長さ2.5～5センチ、灰色で糸状の鱗片毛に密におおわれています。これは、光を反射するとともに空気中から水分を吸収する役割をしています。花は淡緑色で長さが1センチ前後と小さく、茎の頂生に1つだけ咲かせます。

植物名の由来は、同じように樹の幹や枝から垂れ下がる地衣類の「サルオガセ」に似ているところからつけられています。そのサルオガセは、木から木へ跳びまわる「猿の尾にはめる枷(かせ)」という意味です。

また英名では、Spanish moss(スペインゴケ)や old man's beard(老人のアゴヒゲ)、graybeard(灰色のアゴヒゲ)などと呼ばれています。



▲ 「エアプランツ」としても流通している (食虫植物温室にて)

◀ 5月頃に見られるサルオガセモドキの花

今月の花と実



▲ ウナズキヒメフヨウ



▲ ローゼル

♪ この時期の人気者 ♪

寒さにむかっていくこの時期に、元気いっぱい花を咲かす植物がいます。大温室では、遠慮がちに咲くハイビスカスの仲間、「ウナズキヒメフヨウ」が鮮やか。

屋外のハーブ園では、これもハイビスカスの仲間、「ローゼル」が赤い茎の先で可愛い花を咲かせます。ローゼルはハイビスカスティーの原料。濃い色素が感じられる発色です。

【ザ・ヒースター】
コヒーリング茶
一杯無料
11/1～11/30
団体不可